

十勝川流域委員会（第14回）議事要旨（発言委員名あり）

■日時：令和5年1月11日（水）10：00～12：00

■場所：帯広第2地方合同庁舎 3階共用会議室1～3（WebexによるWEB開催併用）

■出席者：泉委員長、山田副委員長（欠席）、赤坂委員、新出委員、石原委員、
志賀委員（WEB）、鈴木委員（WEB）、根岸委員（WEB）、根本委員（WEB）（以上8名）
※委員長、副委員長以降の順は五十音順

■議題

（1）十勝川水系河川整備計画の変更〔変更〕（原案）（案）について

①十勝川における治水対策について

②十勝川水系河川整備計画〔変更〕（素案）からの変更箇所について

（2）今後の進め方について

■議事要旨

（1）十勝川における治水対策について

- ・十勝川にはいろいろな支川があるが、特に音更川に着目したのは、この川による影響が一番大きいからということか。（委員）
→帯広市街地などの資産が集中していることに鑑み、事業効果が高く、かつ、現実的に流量低減ができる支川は音更川であると考えたところ。（事務局）
- ・河道掘削について音更川・札内川も位置付けられているが、どのような断面形状を想定しているのか？（委員）
→音更川・札内川は資料2P90に記載のとおり、本川中上流部と同じように、概ね平水位の敷高で掘削することを考えている。（事務局）
- ・P14に関し、過去実験の状態において同様の整備をした場合、どの程度リスクが低減されるかの情報があれば教えてほしい。（委員）
→後日お知らせする。（事務局）
- ・河道掘削の形状について、掘削面の法勾配を緩くすることで環境影響を少しでも抑えられるはず。特に高水敷に余裕があるような箇所では検討をお願いしたい。（委員）
→河道掘削を実施する際には、本文P107のような断面も含め十分検討していく。（事務局）
- ・音更川の3つのダムのうち、どこかを想定しているのか？（委員長）
→糠平ダムの貯水量が大きいので有効ではないかと考えているが、音更川流域の発電ダム群は、一つのダムの運用を変更すると、ほかのダムの運用にも影響が出る。このため、発電の運用方法などを踏まえ、ダム群でどの程度の治水容量が確保できるかも含め、調査・検討を進めたい。（事務局）

(2) 十勝川水系河川整備計画〔変更〕(素案)からの変更箇所について

- ・ [P6 : L20~22] 高齢化は全国的な問題であるが、十勝地域の高齢化率は全道 14 振興局中でも下から 3 番目程度である。(委員)
→過去からの推移に基づいて事実関係を記載している。樋門操作員の高齢化等が課題となっていることを踏まえ、事務局で検討する。(事務局)
[P111] 地域と一体となった川づくりについて、若者の視点による川づくりに関する記述も加えていただきたい。(委員)
→事務局で検討する。(事務局)
- ・ これまで様々な取組を実施してきているはずなので、もっと記載してもいいのではないか？これまでの取組を記載し PR するべき。(委員)
→これまでの取組は主に前半に記載しているが、事務局で検討する。(事務局)
- ・ [P71] 十勝の観光の魅力について記載し、基本理念に加えるべき。(委員)
→事務局にて検討する。
- ・ 動植物の確認種について、過去 2 回の調査を記載しているが、以前確認されていたコウモリ類など希少種が記載できていないため、せめて希少種だけでも残すべきではないか。(委員)
→事務局にて検討する。改めて確認したい。(事務局)
- ・ 資料 1 ではダム地域選定の件について、帯広市街地等への効果の話が抜けているため、今後地元等に説明する際には、資料 1 にこの観点も追加し、説明していただければと思う。(委員)
→事業効果について、説明できる資料などを整え、流域の方々への説明を進めたい。(事務局)

(3) 今後の進め方について

(4) 全体を通して

- ・ 十分に検討されたものと判断。(委員)
- ・ 今後、事業の実施にあたっては、関係者との調整などを出来るだけスムーズに進めていていただきたい。(委員)
- ・ 既存ダムの有効活用には大きな可能性があるため、幅広い視点で検討して可能性を探っていただきたい。(委員)
- ・ 河川防災でいくとタイムラインがキーワードと考えており、本文にもコミュニティタイムラインの記載があるのは重要なことで評価できる。また、理想ではあるが、一人の命も失わせないような計画であってほしい。(委員)
- ・ 今回の整備計画変更では、既存ダムの有効活用が大きなテーマとして位置付けられている。先の河川整備基本方針では高水流量が大きく改定された。

既存ダムの有効活用は全国的にもあまり事例が無く、チャレンジングな取組である。先駆けて成功させてほしい。(委員長)

以上